

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年1月12日

協議会名: 長野県公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
長電バス(株)	山田温泉線	バス車内の消毒や換気を実施し、お客様が安心して利用できるよう努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:31.4 に対して 実績輸送量22.2であった。	高齢者へのIC割引案内を周知し、利用促進を図る。
長電バス(株)	上林線 ※車両減価償却費国庫補助金を受けている	地域住民に時刻表を配布し、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:25.3 に対して 実績輸送量9.7であった。	コロナ禍で需要が低迷しているため、高齢者乗車券を配布し、利用者の需要を喚起する。
長電バス(株)	永田線 ※車両減価償却費国庫補助金を受けている	バス車内の消毒や換気を実施し、お客様が安心して利用できるよう努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:16.3 に対して 実績輸送量5.6であった。	利用者の少ない時期を減便し、経費節減に努める。
長電バス(株)	屋島線 ※車両減価償却費国庫補助金を受けている	バス車内の消毒や換気を実施し、お客様が安心して利用できるよう努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:21.8 に対して 実績輸送量20.1であった。	運賃表示やバス停表示が見やすいよう車内液晶表示器を設置し、利用者の利便向上を図る。
長電バス(株)	牟礼線 ※公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けている	高齢の方でも見やすい液晶ディスプレイを導入し、利便向上に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:31.6 に対して 実績輸送量24.6であった。	高齢者へのIC割引案内を周知し、利用促進を図る。
長電バス(株)	野沢線	地域住民に時刻表を配布し、利用促進を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:25.9 に対して 実績輸送量17.7であった。	電車との接続を改善し、利用者の利便向上を図る。
長電バス(株)	中野木島線	バス車内の消毒や換気を実施し、お客様が安心して利用できるよう努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量:16.6 に対して 実績輸送量18.5であった。	利用者の少ない時期を減便し、経費節減に努める。
長電バス(株)	屋代須坂線(須坂駅～屋代駅) ※車両減価償却費国庫補助金を受けている	小学校でバスの乗り方教室を実施し、バスを多く利用して頂くよう努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量:16.8 に対して 実績輸送量25.6であった。	コロナ禍で需要が低迷しているため、学生や高齢者に対しても、バス乗り方を実施し利用の底上げを図る。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
アルピコ交通(株)	高府線 (善光寺大門～高府) ※車両減価償却費国庫補助金を受けている	長野市及び小川村地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古等での低床車両の購入や沿線の学校等に時刻表等の配布を行いより一層の利用促進を図っているほか、令和3年度はバリア解消を目的としてノンステップバスを1台導入した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量34.3 に対して、利用者が伸びなかったことから、実績輸送量20.0であった。	長野市及び小川村地域公共交通会議と連携し、コロナ禍における感染防止対策の実施や周知を図るなどし、利用促進を図っていく。
アルピコ交通(株)	高府線 (善光寺大門～初引)	長野市及び小川村地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古等での低床車両の購入や沿線の学校等に時刻表等の配布を行いより一層の利用促進を図っている。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量20.0 に対して、利用者が伸びなかったことから、実績輸送量12.8であった。	長野市及び小川村地域公共交通会議と連携し、コロナ禍における感染防止対策の実施や周知を図るなどし、利用促進を図っていく。
アルピコ交通(株)	鬼無里線 ※車両減価償却費国庫補助金を受けている	長野市地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古等での低床車両の購入などを行い、より一層の利用促進を図っている。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量35.7 に対して、利用者が伸びなかったことから、実績輸送量18.0であった。	長野市地域公共交通会議と連携し、コロナ禍における感染防止対策の実施や周知を図るなどし、利用促進を図っていく。
アルピコ交通(株)	県道戸隠線	長野市地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古等での車両の購入や沿線の学校等に時刻表等の配布を行いより一層の利用促進を図っている。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量37.2 に対して、利用者が伸びなかったことから、実績輸送量19.0であった。	長野市地域公共交通会議と連携し、コロナ禍における感染防止対策の実施や周知を図るなどし、利用促進を図っていく。
アルピコ交通(株)	新町大原橋線 (善光寺大門～新町)	長野市地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古等での低床車両の購入や沿線の学校等に時刻表等の配布を行いより一層の利用促進を図っている。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量27.8 に対して、利用者が伸びなかったことから、実績輸送量18.5であった。	長野市地域公共交通会議と連携し、コロナ禍における感染防止対策の実施や周知を図るなどし、利用促進を図っていく。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
アルピコ交通(株)	新町大原橋線 (善光寺大門～大原橋・犀峽高校)	長野市地域公共交通会議と連携し、利便性の高いダイヤの設定・運賃の適正化、中古等での低床車両の購入や沿線の学校等に時刻表等の配布を行いより一層の利用促進を図っている。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量25.7 に対して、利用者が伸びなかったことから、実績輸送量18.8であった。	長野市地域公共交通会議と連携し、コロナ禍における感染防止対策の実施や周知を図るなどし、利用促進を図っていく。
アルピコ交通(株)	山形線 ※車両減価償却費国庫補助金を受けている	協議会と連携して全線時刻表を作成・配布を行ない公共交通利用促進を図っているほか、令和3年度はバリア解消を目的としてノンステップバスを1台導入した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標輸送量38.1 に対して、実績輸送量38.6であった。	山形村及び松本市地域公共交通会議と連携し、コロナ禍における感染防止対策の実施や周知を図るなどし、利用促進を図っていく。
アルピコ交通(株)	四賀線 ※車両減価償却費国庫補助金を受けている	協議会と連携して全線時刻表を作成・配布を行ない公共交通利用促進を図っている。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量27.9 に対して、利用者が伸びなかったことから、実績輸送量16.1であった。	松本市地域公共交通会議と連携し、コロナ禍における感染防止対策の実施や周知を図るなどし、利用促進を図っていく。
アルピコ交通(株)	本線 岡谷～茅野線	市町村と連携し、時刻表冊子を作成・配布を行い、公共交通利用促進を図っている。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標輸送量35.8 に対して、利用者が伸びなかったことから、実績輸送量27.9であった。	慢性的に渋滞する国道20号線を走行する為、一部バス停での時刻見直しを進めるとともに、コロナ禍における感染防止対策の実施や周知を図るなどし、利用促進を図っていく。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
千曲バス(株)	佐久上田線	土日祝日の運休を引き続き実施して経費削減を図った。また、上田市運賃低減バス実証運行の利用促進活動を実施した。新しい生活様式に即した車内設備(感染予防対策)を施した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:15.0 に対して 実績輸送量6.0であった コロナ禍の為大幅に利用者が減少した為と考えられる	沿線自治体からの支援で路線存続を維持して来たが、令和3年9月末日をもって路線廃止に至った。
千曲バス(株)	中仙道線	佐久市内循環バスとの接続を引き続き実施した。新しい生活様式に即した車内設備(感染予防対策)を施した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:40.0 に対して 実績輸送量11.9であった コロナ禍の為大幅に利用者が減少した為と考えられる	佐久市内循環バスが令和3年9月末日をもって廃止となった。令和3年10月より運賃低減バスが始まったことに伴い、利用促進活動を実施して行く。また、新しい生活様式に即した車内設備等を充実させてゆく。
千曲バス(株)	鹿教湯線(鹿教湯車庫～下秋和)	高校への定期券出張販売や上田市運賃低減バス実証運行の利用促進活動を実施した。コロナ禍のため規模は縮小したがプレゼントキャンペーンなど実施した。新しい生活様式に即した車内設備(感染予防対策)を施した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:50.0 に対して 実績輸送量42.1であった コロナ禍の為大幅に利用客が減少した為と考えられる	運賃低減バスが継続されているため、季節に合わせた車内デコレーションやプレゼントキャンペーンなど、引き続き利用促進活動を実施する。また、新しい生活様式に即した車内設備等を充実させてゆく。
千曲バス(株)	鹿教湯線(丸子～下秋和) ※公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けている	高校への定期券出張販売や上田市運賃低減バス実証運行の利用促進活動を実施した。コロナ禍のため規模は縮小したがプレゼントキャンペーンなど実施した。新しい生活様式に即した車内設備(感染予防対策)を施した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:60.0 に対して 実績輸送量50.8であった コロナ禍の為大幅に利用客が減少した為と考えられる	運賃低減バスが継続されているため、季節に合わせた車内デコレーションやプレゼントキャンペーンなど、引き続き利用促進活動を実施する。また、新しい生活様式に即した車内設備等を充実させてゆく。
千曲バス(株)	青木線 ※公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けている	青木村・上田市と連携した運賃低減バス実証運行の利用促進活動を実施した。貨客混載バスも引き続き実施した。コロナ禍のため規模は縮小したがプレゼントキャンペーンなど実施した。新しい生活様式に即した車内設備(感染予防対策)を施した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	B 目標輸送量:70.0 に対して 実績輸送量56.0であった コロナ禍の為大幅に利用客が減少した為と考えられる	運賃低減バスが継続されているため、季節に合わせた車内デコレーションやプレゼントキャンペーンなど、引き続き利用促進活動を実施する。貨客混載バスを有効活用し、生産性を向上させる。また、新しい生活様式に即した車内設備等を充実させてゆく。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
上田バス(株)	真田線	夏休みキッズパスの配布。モビリティマネジメントの実施。回数券、定期券購入者向けの粗品プレゼントキャンペーンの実施。車内装飾を期間限定で実施。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標輸送量は20.6人に対して輸送量は12.9人であった	新型コロナウイルス感染症の拡大により乗車率が下がり、収支率も前年に比べ悪化した。感染症拡大防止対策を講じた上で、現状の運行を維持し、バスの乗り方教室等利用啓発を行う。QR決済の導入により利用率の向上を図る。
上田バス(株)	菅平高原線 ※車両減価償却費国庫補助金を受けている	夏休みキッズパスの配布。沿線近隣の小中学生を対象としたバスの乗り方教室の実施、将来の利用者掘り起し。複数回乗車のお客様に高原野菜プレゼント企画実施。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標輸送量は41.4人に対して輸送量は27.3人であった	新型コロナウイルス感染症の拡大により乗車率が下がったが、収支は前年とほぼ同額。感染症拡大防止対策を講じた上で、菅平観光協会と協力し、今後も高原野菜のプレゼント等の企画を実施していく。新たに開始したQR決済を周知し利便性向上を促し乗車率増加を目指す。
上田バス(株)	真田自治センター入口線 ※公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けている	夏休みキッズパスの配布。モビリティマネジメントの実施。回数券、定期券購入者向けの粗品プレゼントキャンペーンの実施。車内装飾を期間限定で実施。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	目標輸送量は33.2人に対して輸送量は11.6人であった	新型コロナウイルス感染症の拡大により乗車率が下がり、収支率も前年に比べ悪化した。感染症拡大防止対策を講じた上で、上田市と協力し、観光客取り込みを目指す。又QR決済の導入により利用率の向上を図る。
信南交通(株)	駒場線(中村経由) ※公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けている	利用者の利便性向上として「阿智村巡回バス乗車券」の共通利用を検討するが、精算方に課題があり継続検討する。	A	計画通りに事業は適切に実施された。	B	沿線高校2校において令和3年度より生徒数減少によりクラス数が減少となり輸送量42.4人の目標に対し実績30.1人と大きく下回ってしまう。	飯田市地域公共交通改善市民会議および南信州地域交通問題協議会と連携しコロナ禍における感染防止対策の実施および周知を行い利用促進を図って行く。
信南交通(株)	駒場線(市立病院経由)	利用者の利便性向上として「阿智村巡回バス乗車券」の共通利用を検討するが、精算方に課題があり継続検討する。	A	計画通りに事業は適切に実施された。	B	目標輸送量24.8人に対しコロナ禍による市立病院への通院利用が大きく減少し実績輸送量15.6人であった。	飯田市地域公共交通改善市民会議および南信州地域交通問題協議会と連携しコロナ禍における感染防止対策の実施および周知を行い利用促進を図って行く。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
諏訪交通(株)	諏訪湖周スワンバス外回り線	今回初めての事業評価であるため反映状況無し。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	目標輸送量:15.0に対して実績輸送量29.5であった。	若年層(高校生)を対象とした乗車体験イベントを実施し利用促進を図る。観光客の取り込みをするため、観光マップ・時刻表を配布し利用拡大を図る。
ジェイアールバス関東(株)	諏訪湖周スワンバス内回り線	今回初めての事業評価であるため反映状況無し。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	目標輸送量:15.0に対して実績輸送量30.8であった。	二市一町(諏訪市、岡谷市、下諏訪町)と連携し利用促進を図る。お客様個々の利用状況に合わせた時刻表を提供するサービスの実施(乗り継ぎ等)